

なぜ秩父なのか？

来年度からスタートする森林環境譲与税の使途に秩父地域（荒川上流域）への投資・支援を呼びかけている理由についてご理解ください。

1 荒川流域の現状・課題

2 森林整備とその効果

3 荒川流域連携による防災・減災

秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町
秩父地域森林林業活性化協議会

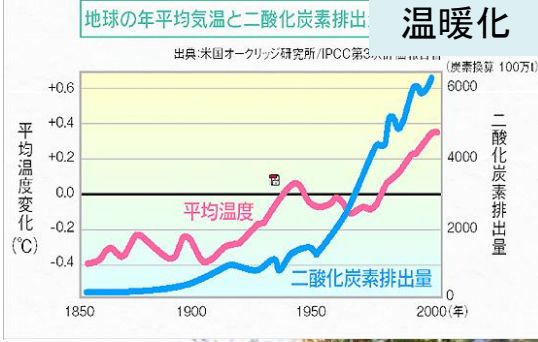
荒川流域の現状・課題



私有林人工林の手入れが進まない、
このまま放置すると・・・
様々な悪影響が拡大するリスクが・・・



渇水



温暖化



花粉



洪水

江東5区広域避難推進協議会

荒川の下流では

足立区 葛飾区 墨田区 江戸川区 江東区

荒川 江戸川

多くの地域がゼロメートル地帯の

江東5区で

今までに経験したことがないような **水害**が発生したら・・・

大規模な

最大10mの浸水
2週間水が引かない
250万人が被災

荒川・江戸川
今までに経験したことがないような **豪雨**の発生

荒川と江戸川の同時氾濫

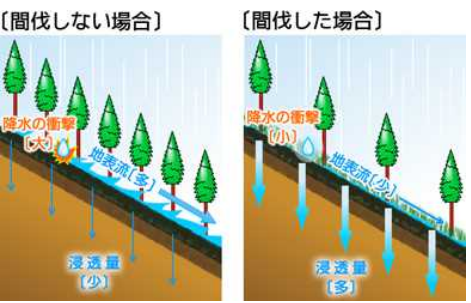
3日前(72時間前)からのより安全な「広域避難」が呼びかけられている

巨大台風の襲来

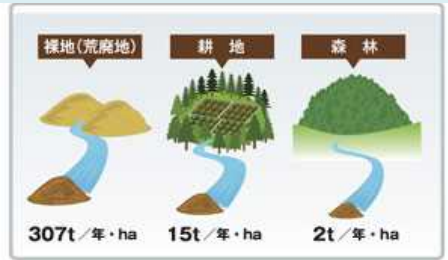
暴風と高潮

江東5区広域避難推進協議会パンフレットより

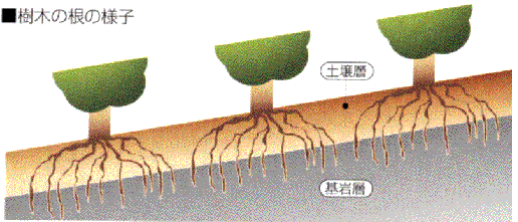
森林整備とその効果



水源涵養機能: 10.98%増



土砂流出防止機能: 11.86%増



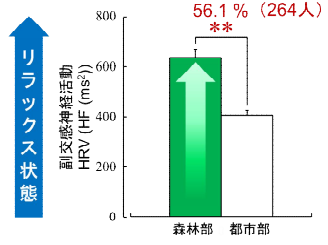
土砂崩壊防止機能: 34.0%増



森林整備を行うと、森林の公益的機能が向上します。
秩父地域の森林の公益的機能額: 2, 835億円/年、
毎年850haの森林整備を行うと、毎年4. 37億円、
26年間で113. 64億円増加します。
※埼玉県の試算を基に各種文献により試算



野生鳥獣保護機能: 5.27%増

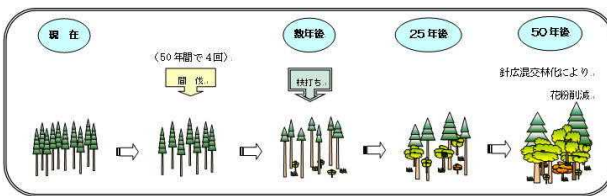


平均±標準偏差, **p<0.01, 対応のあるt検定

保健休養機能: 2.67%増



CO2吸収機能: 6.38%増



花粉削減機能: 1.11%増

荒川流域連携による防災・減災

荒川データ
延長:173km
流域面積:294,000ha
流域人口:約976万人

秩父市・横瀬町・皆野町
長瀬町・小鹿野町

秩父地域1市4町の森林整備目標
平成31年度から始まる森林経営管理制度・森林環境譲与税制度に基づき、秩父地域森林林業活性化協議会と連携し、毎年850ha、26年間で市町有林・私有林人工林22,410haの森林整備の実施を目標とする。

平常時:林業・減災体験、森林整備支援
非常時:避難

目標が実現すると

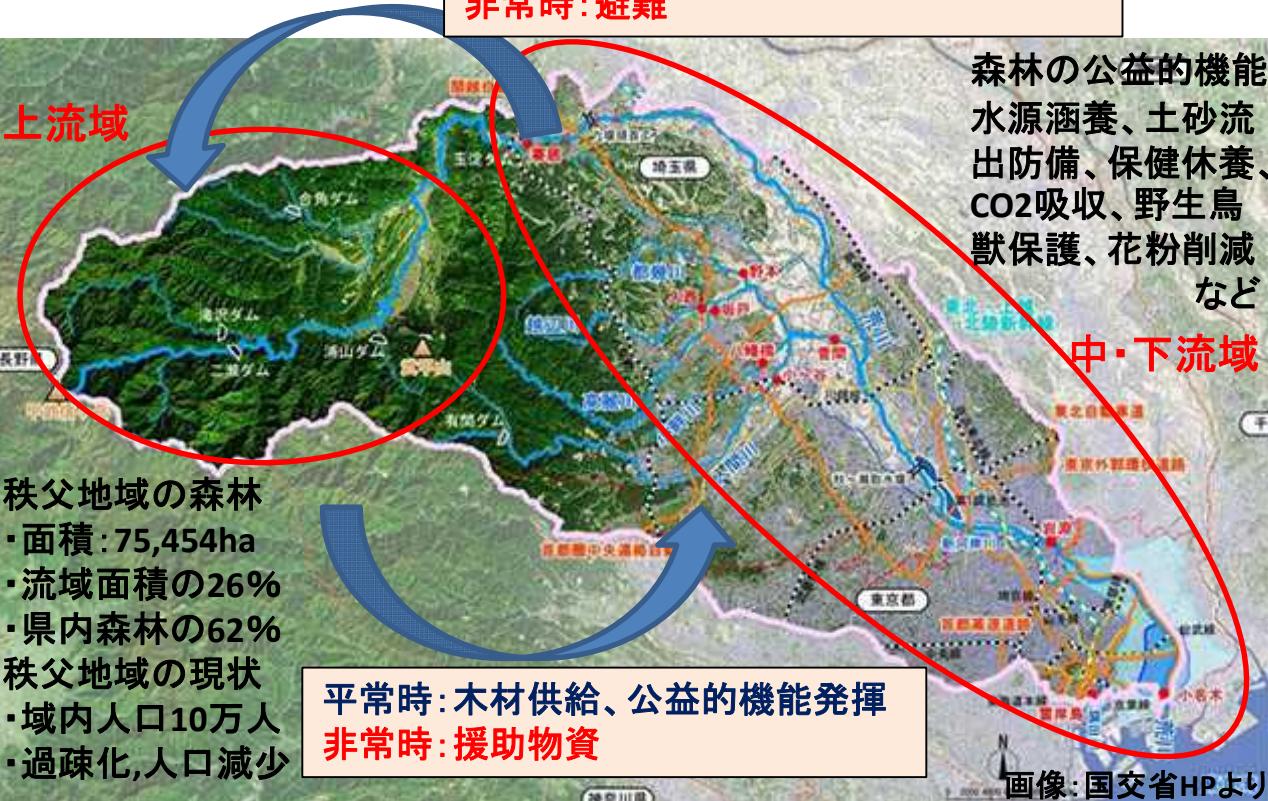
上記森林整備の効果
木材供給:1万m3/年→4.3万m3/年
森林の公益的機能:毎年4.4億円増
26年で114億円増
森林の貯水機能:毎年12万m3増
(滝沢ダム洪水期有効貯水量の0.5%)
26年で318万m3増
(滝沢ダム洪水期有効貯水量の12.7%)

洪水・渇水のリスクが減るが

森林環境譲与税の譲与試算額
H31上流域(秩父地域):4500万円
H31中下流域:2億9千万円
H45上流域(秩父地域):1億5千万円
H45中下流域:9億8千万円

十分な資金がないので

上流域(秩父地域)への支援・投資を



上流域

森林の公益的機能
水源涵養、土砂流出防備、保健休養、CO2吸収、野生鳥獣保護、花粉削減など

中・下流域

秩父地域の森林
・面積:75,454ha
・流域面積の26%
・県内森林の62%
秩父地域の現状
・域内人口10万人
・過疎化,人口減少

平常時:木材供給、公益的機能発揮
非常時:援助物資

画像:国交省HPより